



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ・シリア：アサド大統領に対するトルコ紙インタビュー

(3-4日付ジュムヒュリエット紙)

3日、4日付トルコのジュムヒュリエット紙は、シリアのバッシュール・アサド大統領に対するウトク・チャクルオゼル記者のインタビューを二日連続で掲載した。概要は以下のとおり。

1. バッシュール・アサド大統領発言要旨

- (1) もし、我々がシリア領空外で撃墜したのであれば、我々は正式にトルコに謝罪するだろう。我々は、撃墜した後で当該機がトルコ軍機であることを知った。私は100%、「撃墜しなければ良かった」と思っている。
- (2) 我々は、この緊張が両国間の戦闘に発展することを許さない。両国とも傷つけるからであり、現在の流れがトルコ政府のみのものであり、トルコ国民は決して戦争を欲しないと信じている。
- (3) エルドアン政権がいかなる策を取ろうとも、シリアが軍部隊を国境に展開することはない。
- (4) 6月30日のジュネーヴ会合においてアナン氏は他国についても責任があると述べたが、これはまさに我々が当初から言っていたことだ。国外での言葉や決定を我々は気にしない。我々が気にするのはシリア国民が何と言うかである。
- (5) エルドアン首相は我々との友好・同胞関係を越えて内政干渉をはじめた。しかし我々は主権国家であり、他国からの内政干渉を認めるわけにはいかない。内政干渉の結果、トルコはその後のプロセスにおいてシリアにおける流血をもたらす側に立つこととなった。人々を殺戮するテロリストにトルコからあらゆるロジスティックな支援がなされている。
- (6) この地域においてエルドアン首相の信頼性は失われている。これはエルドアン首相が宗派的な衝動により行動しているためである。
- (7) 私はエルドアン首相と深い関係を構築したとは考えていない。戦略的な関係をトルコ国民との間で構築した。エルドアン首相はいつの日か退任するが、トルコ国民との関係はいつまでも続く。